

2013年10月25日発行（毎月発行）

地域と協同の 110号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

「回路」

田中義二（研究センターNEWS編集委員・表現舎）

都会では自殺する若者が増えている
今朝来た新聞の片隅に書いていた
だけでも問題は今日の雨傘がない

（『傘がない』井上陽水）

若者の自殺が増えている（大状況）と新聞は伝え
ている。気になるけれども、今日やらなきゃいけないのは、
会社が強い売上目標の達成！（小状況）ほかに私の身を守って
くれる傘はない？ 陽水の容貌とともにこの歌を思い出せる人
はもう定年近いだろう。今は昔、の歌だろうが、状況はといえ
ば、好況を一回りして更に酷い。

歌詞の「新聞」を「研究センターNEWS」に置き換えてみる。
大状況と小状況をつなぐ「回路」を可視化し、会員に「傘はここ
に」といえる道＝自立と協同の道を探ってもらおう。それが冊子の
役目だが、それが果たしているか...と、編集委員をしながら自問
する。

今回、編成が新たにされ、従来の「NEWS」に加え「(仮称)増刊・地域と協同」が新設される。
2誌編成で、前者は「報せ」に重点を置き、後者は「掘り下げ」に重点を置く。限られた予算と誌面
だが、できる限り「回路」の充実に取り組みたいと思っている。

更に、会員構成と普及部数のあり方も課題だと思う。会費の中に団体会費・維持会費がある。その
口数に比べ「NEWS」の配布・普及部数は極端に少ない。つまり本来読者であるべきところに届いて
いないのではないかと考えている。



カット＝塩澤哲弥（美術集団8月・表現舎）

紙面変更のお知らせ

前号の巻頭でご案内しましたが、研究センターNEWSは、この110号より、研究センター活動の速報を
中心に毎月発行になります。別冊で発行していた情報クリップは、研究センターNEWSに統合します。
活動報告や会員交流がさらに充実するよう目指していきます。ホームページ、FACEBOOKなども、
これまで以上に充実させていきますので、ぜひご覧ください。ご意見、ご感想、情報等もお寄せください。

CONTENTS

巻頭エッセイ 「回路」	1
「三重のつどい」開催しました 鹿肉を使った簡単フレンチ講習会	2
「ラーニングアーバー横蔵・樹庵 夏祭りに参加」 改めて、地域に根付き、地元の人たちの 掘り所、集う場所である事が分かりました！	3
ものづくりの思いを語る会 ご紹介 企業理念、建前でない社是とその実践を語り合う	4
情報クリップ	5-7
企画案内・書籍案内	8

研究センター 10月の活動

3日(木) 協同の未来塾企画委員会/研究センター常任理事会
4日(金) ものづくりの思いを語る会
7日(月) 共同購入事業マイスターコース第4回
9日(水) NEWS編集委員会10日(木) 三重のつどい世話人会
18日(金) フォーラム職員の仕事を考える世話人会
21日(月) 増刊・研究センター座談会
23日(水) 三河地域懇談会 実行委員会
26日(土) 第10回東海交流フォーラム第2回実行委員会
30日(水) 食と農パネル 白川町における集落営農に学ぶ 調査見学

「三重のつどい」 開催しました

（文責：事務局 大島）

鹿肉を使った簡単フレンチ講習会

8月19日（月）、津市アストプラザ5階、食工房で「三重のつどい 鹿肉を使った簡単フレンチ講習会」が開催されました。三重県、コープみえ、三重県生協連、研究センターの共催で、参加者は生協組合員23名（コープみえ、大学生協）一般の方13名でした（内男性は7名）。

研究センター「三重のつどい」では、県内で鳥獣被害が増加していることや、捕獲鳥獣の消費が進んでいないことを学び、私たちが消費者としてできることを考えたいと話し合ってきました。そこで、なかなか自宅ではできない鹿肉の調理の仕方を学ぶ機会を持って、考え合うこととなりました。

三重県の豊かな自然の中で生まれ育った野生鹿は古来より、自然からの貴重な恵みとして食されてきました。近年、野生鹿の生息頭数の増加や生息区域が拡大した結果、農林産物への被害が増加しており、その被害を軽減するため、個体数調整のための捕獲が行われています。しかし、捕獲された野生鹿が食されることは少ない状況にあります。やむを得ず捕獲した鹿を食することで「命を大切にいただく」気持ちを育み、肉の利活用など「地域を元気にする宝物」として、地域における取り組みを、三重県では進めているそうです。三重県農林水産部獣害対策課の橋本さんから、三重県における状況説明と「三重ジビエ」の紹介がありました。

鹿肉の脂肪率は牛肉の80分の1程度、ヘルシーで高タンパク、鉄分は牛肉の2倍以上とされています。また、フランス料理では花形食材として知られています。講習会では、ミュゼボンヴィヴァン（三重県津市・県立美術館内）の出口直希シェフを講師に、前菜・スープ・メインの3品を調理しました。（メニューは鹿肉のローストを使った前菜、焼いた鹿肉などを浮き実にした冷たいポタージュ、季節の野菜を添えた鹿肉のワイン煮込み）はじめに出口シェフに実演していただき、グループに分かれて実習を行いました。一般家庭で料理することを前提としたコツやポイント等をわかりやすく説明していただきました。ジビエ（野生鳥獣肉）がフランスで高級なのは、適切な肉の処理と調理法を確立しているからで、日本でも豚のヒレ肉を、しょうが焼きにはしないように、鹿肉でも部位によっておいしい食べ方があるそうです。ローストするにはロースやもも肉、煮込みはバラ肉や前足などが合っているとのこと。

肉のロースト工程等、時間がかかる工程はすでに下ごしらえをしていただきましたので、全テーブル予定通り1時間30分以内でつくることができ、調理後、みんなでおしゃべりしながら会食を行いました。初めて出会った方々も、調理作業を通して仲良くコミュニケーションがすすんでいる様子でした。

「鹿肉は年中手に入るが、調理方法が思いつかなくて困っていたので、参加して良かった。」「猪肉の料理講習会も開催してほしい。」などの声が寄せられています。



中央が出口シェフ



ワインも美味しく楽しく試食

三重のつどいでは、今後「多気町の岸川政之さんから地域振興の取り組み実践を学ぶ」交流会を開催する予定です。岸川さんは、ドラマにもなった高校生レストラン「まごの店」の仕掛け人です。企画に先立ち、世話人会では「まごの店」の視察を行いました。手の込んだ、とても高校生がつくったとは思えない「花御膳」を堪能しました。有意義な企画にしたいと相談しています。どうぞお楽しみにお待ちください。

岐阜地域懇談会 岐阜をしろ、つなごう！！ 活動報告（文責：事務局 井貝）

「ラーニングアーバー横蔵・樹庵 夏祭りに参加」

改めて、地域に根付き、地元の人たちの拠り所、集う場所である事が分かりました！

第3回岐阜のつどいで訪れた「ラーニングアーバー横蔵・樹庵」で「風の谷夏まつり」が、8月17日に行われました。前回うかがったのは、寒い冬の真っ最中、12月8日。雪の舞う中での見学、バレーボール樹庵杯開催中で、教室を客室にした宿泊の様子は、昭和の時代の修学旅行の宿のようでした。つどいに参加したメンバーから、「違う季節のこの施設がみたいねえ」との声があがっていました。「夏祭り」があることを知り、樹庵再訪が決まりました。今回は7人で、参加しました。

夏祭りは3時から始まるのに、現地に集合したのは、1時半。ちょっと早すぎましたが、剣道クラブ合宿中の子どもたちの声が、体育館に響き、グラウンドではカラオケ大会リハーサル中の地元の人たちでにぎわっていました。祭りの様子は、新聞でも取り上げられ、今年は約450名の方の参加があり、カラオケやものまねショーで会場が沸き、鮎の塩焼きや焼きそばの屋台が人気を集め、キャンプファイヤーや花火が祭りに花を添え、盛況だったそうです。



お祭りの準備



出店の割引券の行列



生ハム加工小屋(熟成中)

小林正美さん著「学びの杜」にも登場しておられる、元高校教師森文彦さんの、『蕎麦処・樹庵』で、そばをいただきました。そばのおいしさはもちろんですが、私が見るたびに感心するのは、薬味のねぎの繊細さです。いろんな場所で、刻みねぎをみますが、これだけきれいに刻んであるねぎは他では見たことはありません。森さんの蕎麦作りにかかる情熱がこのねぎを見るだけで伝わってきます。「まだまだ勉強中」という、森さんの姿勢は、第2の人生などという言葉は全く似合いません。『学びの杜』の中の「いなかには、いろんな名人がいる。企業に束縛されていた世代が本来の自分を取り戻し、得意なことを持ち寄って地域のためにもうひと働き。そんな場にしたい」という一文そのままでした。

私の住んでいる地域の近くでも小学校が閉校しました。その地域に住む友人が、「町に学校がなくなるといことは、思っていた以上に町の活気がなくなることだとわかった。子どもの声は本当に大事だ」と。体育館の元気な子どもの声と、元気な高齢者のカラオケの声、この二つが響く、ラーニングアーバー横蔵、このような取り組みが、まず岐阜県のあちこちで広がっていったら・・・樹庵の夏祭りは、夢が広がる空間でした。

「ラーニングアーバー横蔵・樹庵」は今年10周年で、本が発行されました



書籍案内ー「団塊世代、社会の風を感じ取れ！あれから10年、これから10年 何かやり残したことがある！」

夢工房：発行 定価：本体1500円+税

「ラーニングアーバー横蔵・樹庵」の本が、交流の際お話ししていただいた小林正美さんより紹介されました。訪問した時の研究センターNEWS記事も載っています。普及用に預かりました。ほしい方は事務局までご連絡下さい。

ものづくりの思いを語る会 ご紹介

（文責：事務局 伊藤）

企業理念、建前ではない社是とその実践を語り合う

「ものづくりの思いを語る会」は、2002年に発足しました。日頃こだわりの商品を作っているメーカーの代表等が集まり、ものづくりの思いを交流し、工場見学を行ったり、意見交換をしたり、勉強する機会を持っています。「ものづくり」にはその根源である企業理念が一番大切ということをおの間一貫して話し合ってきました。発足以来11年が経ちますが、この10月4日、第26回目の会を、餃子の皮でおなじみの「瑞逢社（愛西市）」で開催しました。



瑞逢社 餃子の皮のライン

そのきっかけは、瑞逢社社長の吉永満穂さんが、悩んでおられたことです。今年の会で、「瑞逢社では小麦粉を使った商品を生産していますが、その関連残渣は、現在では食品リサイクル法の仕組みの中で飼料として活用されています。しかし、まだ食べられるのに飼料としなければならない。こんなもったいないことはありません。何かに生まれ変われたらと思います。」というお話がありました。たくさんの意見や質問が出てから一年後のこの秋、工場へ伺い見学させていただき、手作り餃子の実習もさせていただきました。瑞逢社の目標は、「小粒でもなくてはならない企業」です。ますます多様化・複雑化している食ニーズの中で、安心という基本は変えないというのがモットーです。社名には、次の意味が込められています。「瑞」は「めでたい」という意味、「逢」は「逢う」、めでたいことにあうところという思いでした。餃子皮の残皮を、春巻の皮や他のおやつに加工するなど工夫し、食育活動にも取り組んでおられます。最終的に出る残皮は、資源再生ネットワークを経て豚の飼料になります。



「掃除は全員で、1時間半くらいかけてします。粉っぽい工場がきれいになるまで。自主基準を設けて、落下菌を減らす努力をしています。」との説明に一同感心し、「異業種間の交流は、知恵をわけてもらえるのがありがたい」という声があがりました。

美味しい餃子の作り方のポイントは、まず豚ミンチに塩・コショウを入れて粘りが出たから調味料を入れてさらに白っぽくなるまでよくこねることです。野菜は片栗粉、ごま油をかけて混ぜてから、豚ミンチに混ぜます。今回の参加者は、今まで材料を全部最初から一緒にして混ぜていました。焼き方にもコツがあります。詳しい作り方は、瑞逢社のホームページに載っています。ご覧ください。

ものづくりの思いを交流し続け、社会のあり方や企業のあり方、地域や協同組合との連携を考え続けているこの会は、年に一度か二度の開催ではありますが、引き続き交流を深め、研究センター会員のみなさんへ何らかの発信をしたいと考えています。

<メンバー：田邊準也さんより> そんなに遠くない昔、町でも村でも、もの〔暮らしの糧〕をつくる人、と使う人はお互いにもっとずっと身近だった。ものづくりにはいつも使う人の声が生かされ、良いものをつくれれば直接喜びの声を聞くことができた。

世の中変化して、地元から全国に流通が広がり、そんな経験をするのが段々難しくなったが、生協運動を通して消費者とふれあい何か昔が蘇ったような気がする。この経験、思い、いつまでも大切にしたい、もっと沢山のひとと共有したいと、酢、味噌、豆腐、油等々のメーカーの皆さんの呼びかけで、「ものづくりの思いを語る会」が始まりました。その頃、研究センターでも、地産地消、本物づくりを大切なテーマとして掲げていましたので、皆さん会員になり、研究センターの一翼を担って頑張っています。原発事故で、本当によりよい暮らしが問われている今、消費者の思いと相通じる大切なテーマ、活動だと確信します。

情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
<p>▶「私たちの地域づくり」 をしよう</p> <hr/> <p>COOP「生協運動」改題 NAVI</p> <p>2013.10 739</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>▶特集「私たちの地域づくりをしよう」～地域を支える組合員の底力</p> <p><仲間たちはいま> 富山県生協 東部センター 島田恵さん <防災365日> PART7 豪雨・台風にも備える 水害から身を守るためには <宅配・現場レポート> ユーコープ 仲間づくり教育 <突撃★あなたの街の組合員活動> パルシステム山梨 劇団ばるばる <生協の店づくり最前線> コープおおいた コープ南大分店 <ボからは商品探偵団> 組合員の声でますますおいしく！全粒粉ミルクチョコビス <つながろうCO・OPアクション情報> 東北復興記念巡礼 四国4生協他 <食品のはてな？BOX 今月のテーマ> 「秋の味覚」 <明日のくらしささえあう COOP共済> 2013年度 COOP共済全国交流集会 <林家たい平 笑顔が見たくてこの仕事> 其の七 <CO・OPニュースフラッシュ> コープいしかわ いばらきコープ <思わず話したくなる！生協の基礎知識> 第7回 [欧州の生協編②] <この人に聞きたい> 演出家・作家 鴻上尚史さん <もっと知りたい！CO・OP商品> フリーリアシリーズ</p>	<p>2013年 10月 A4版 39頁 定価 350～円</p>
<p>▶ひとつ風呂あびよう</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 COMCOM</p> <p>2013.10 554</p> <p>日本医療福祉生活協同組合 連合会</p>	<p>▶特集 ひとつ風呂あびよう</p> <p>[インタビュー] 銭湯が地域を再生する 公衆浴場「栄湯湘南館」店主 北橋節男</p> <p>[レポート] でっかい風呂で地域だんらん 新潟医療生協 住まい・介護・医療・集いのひろば「なじよも」</p> <p>[バンビのつぶやき⑩] どっち！？健康法あれこれ 本のおもちゃ屋 店主 中根桂子</p> <p>[住まう⑩] サービス付き高齢者向け住宅（前編）</p> <p>[介護十人十色⑩] 若くして認知症を発症した本人を家族の「居場所」を作りたい（前編） 若年性認知症支援の会 愛都の会 代表・梅村早苗 事務局長・杉原久仁子</p> <p>[TOMOそだち⑩] 仲間と一緒に、性を学び考える 「ピアっ子あいち」代表 清水亮・多川三紀子</p> <p>[協同のある風景] 209働く母親の子育てに安心を届ける事業 ながおか医療生協（新潟県）生協こどもクリニック 病児保育室すこやか</p>	<p>2013年 10月 A4版 40頁 定価 400円</p>
<p>▶おいしい菜 まちづくり</p> <hr/> <p>はじめる！人がつながる 社会が変える のんびる</p> <p>2013.10 No.84</p> <p>パルシステム 生活協同組合連合会</p>	<p>【特集】おいしい菜 まちづくり</p> <p>*「作物も、人も、地域もみんな“有機のつながり”で育まれていくんです」 埼玉県小川町 霜里農場</p> <p>*江戸東京野菜&地場の夏野菜をコミカフェで料理して食べる！ 東京都江戸川区 木村農園&NPO法人なぎさ虹の会</p> <p>*「農業はまだまだすごいぞ！自然薯と黒枝豆で始めたまちづくりを見て！！」 農業生産法人 株式会社ファームいせはら</p> <p>*土の匂い、稲の香り・・・私たちの暮らしには人を癒すチカラがある 山形県長井市 レインボープラン</p> <p>内山節 里山から考える 第46回 上野村になぜ認知症の老人が少ないのか 老いについて(1)</p> <p>色平哲郎の「地域と医療からみる未来のかたち」第19回 村の「もんだ」主義も悪くない</p> <p>特集2 触れて元気に 心も体もいやされ、パワーをもらう</p>	<p>2013年 10月 B5版 51頁 定価 315円</p>

<p>▶ 暮らしとエネルギー ガスの巻</p> <hr/> <p>生活協同組合研究</p> <p>2013.10 453</p> <p>(財)生協総合研究所</p>	<p>■ 巻頭言 がんばれ ベトナムの協同組合 吉田元夫</p> <p>▶ 特集 暮らしとエネルギー ガスの巻</p> <p>入門・都市ガス産業 竹中康治 ガスの今後とエネルギー問題 大橋弘 家庭におけるエネルギー消費の状況と今後のガスの役割 鶴崎敬 「コープのガス」広がりを目指して 小川誠剛</p> <p>インタビュー: 栄ガス消費生活協同組合 ー日本で唯一のガスの生協ー 佐藤正行 解題: エネルギー生協の可能性を考える 三浦一浩 コラム1 ガス料金をめぐって 鈴木岳 コラム2 ガスを動力とした冷暖房 アイシン精機への取材より 宮崎達郎 コラム3 エネルギー施設見学会に参加して 山崎由希子 コラム4 GAS MUSEUMを訪ねて 熊倉ゆりえ</p> <p>■ 被災地からの報告 佐藤日出美 岩手県宮古市の産業復興の現状と課題</p> <p>■ 本誌特集を読んで (2013, 8) 白鳥和生 炭谷昇</p> <p>■ 新刊紹介 荻原優騎 伊豫谷登志翁、斎藤純一、吉原直樹『コミュニティを再考する』</p>	<p>2013年 10月 68頁 B5版</p>
<p>▶ 持続可能な農業の 実現</p> <hr/> <p>月刊 J A</p> <p>2013.10 704</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 持続可能な農業の実現 (2) 生産販売戦略の強化に向けて</p> <p>① JAグループ主導の生産販売戦略強化に向けた取り組み JA全中営農・農地総合対策部</p> <p>② 営農指導機能の高度発揮による販売力強化に向けて ーJAゆうき青森の事例を参考に 三石誠司</p> <p>③ JAによる6次産業化 ー求められる、フードシステムを視点をもった戦略的取り組み 清野誠喜</p> <p>④ 食品の安全確保に必要な事は何か ー生産者・生産者団体の取り組み 工藤春代</p> <p>○きずな春秋 ー協同のこころー○ 童門冬二 ○ミノーレからこんにちには○ / JAグループの共通コンテンツ ○協同の実践に学ぶ○ 先人の言葉・石川正平 白石正彦 ○直言! JAへのメッセージ○ JAの組織力で 藤田智 ○協同組合の広場○ 日本生協連、JF全漁連、全森連、全労済 ○次代へつなぐ地域社会のために○ 支店協同活動の戦略的展開 ④現場の体制整備 西井賢悟 ○展望 JAの進むべき道○ 「仕事で人が育つ経営」への転換 富士重夫 海外だより [DC通信] 29 最近のアメリカ議会の状況 古林秀峰 協同の力で農業と地域を豊かに 地域力を活用した「命を育てる教育」〈中編〉 ～全小学校での「喜多方市小学校農業科」の実践 青山浩子</p> <p>次代へつなぐ協同実践塾 ・持続可能な農業の実現 JAにおける営農指導機能強化のための「見える化」の必要性について JA全中営農部・JA農地総合対策部</p> <p>・豊かで暮らしやすい地域社会の実現 転換期を迎えたJAファーマーズマーケット JA全中くらしの活動推進部・JA地産地消全国協議会</p> <p>・10年後JAが存続するために PDCAサイクルを有効に活用する JA全中経営対策本部</p>	<p>2013年 10月 A4版 64頁 年間購読料 4,800円(送料込)</p>
<p>▶ 多様性を保障する</p> <hr/>	<p>特集 多様性を保障する障害者差別解消法を考える 障害者制度改革と障害者差別解消法 ー その意義と課題 尾上浩二 (DPIに本会議)</p> <p>インクルーシブな社会を目指すEUの実践 引馬知子 (田園調布大学)</p> <p>障害のある人とない人がともに活動をするための運動づくり</p>	

<p>社会運動</p> <p>2013.9 402</p> <p>市民セクター政策機構</p>	<p>瀬山紀子 (アジア女性センター) 都市計画決定手続きを市民的に改革する視点 新連載 TPPが破壊する日本の食 第1回 TPPへの序章 抄訳『エネルギー協同組合 - 良き社会における市民・自治体、地域経済』 新在留管理制度で外国籍市民はどうか 第2回 (最終回) 世界をつなぐニューズレター 持続可能な地域開発 (最終回) 特別インタビュー『生活クラブという生き方』の源流にあるもの 書評 神門善久著『日本農業への正しい絶望法』</p> <p>伊藤久雄 (まちぼっと) 白井和宏 (生活クラブ・スピリッツ(株)) 第1回 翻訳 手塚智子 旗手明 (自由人権協会) 岩根邦雄、道場親信、編集部 今野聡</p>	<p>2013年 9月 B5版 60頁 頒価 500円</p>
<p>▶資源は だれのものなのか?</p> <hr/> <p>協同の発見</p> <p>2013.7 250</p> <p>協同総合研究所</p>	<p>■巻頭言 次世代から課せられた宿題 岡村信秀 (広島県生活協同組合連合会会長理事、協同総研理事)</p> <p>一般社団法人 協同総研研究所第1回総会報告 一般社団法人 協同総合研究所第1回総会記念フォーラム報告 “見えない”消費社会から地域自給圏へ ・第1回提起 「壊国」を迫るTPPにいかにか立ち向かうか - 反対運動と結んだ食と農を守る新たな連帯 島田桂一郎 (協同総研顧問・日本農業新聞 元代表) ・第2提起 「感動」を提供する楽しい地域交流拠点づくりの取り組み 小林史麿 (産直市場・グリーンファーム会長) 甲斐良治 (農文協編集局 次長)</p> <p>■全体総論とまとめ</p> <p>■論考 地域医療の視点から見たTPP問題 市川英彦 (長野県高齢者生活協同組合 理事長)</p> <p>■学習会報告 日本の食糧・医療・暮らしを破壊するTPPとそのねらい 鈴木宣弘 (東京大学 教授)</p> <p>■連載 欧米諸国の現代協同組合の比較研究 島村博 (協同総研 主任研究員)</p> <p>■協同総合研究所総会資料 ・ 協同総合研究所第23回総会議案 ・ 一般社団法人総合研究所第1回総会議案 ・ 資料 一般社団法人 協同総合研究所定款 ・ 会員メッセージ</p>	<p>2013年 7月 A4版 142頁 定価 1300円</p>
<p>▶パーティって何?</p> <hr/> <p>くらしと協同</p> <p>2013.秋号 6</p> <p>くらしと協同の研究所</p>	<p>グラビア 人々の集う場所 - 喫茶店今昔 巻頭言 第21回総会記念シンポジウムを終えて 論争 「班」と「個配」を考える 「班」の今と、これからのあり様を考える 個人のくらし対応から地域目線を広げて考える</p> <p>特集 パーティって何?</p> <p>● 「おしゃべりパーティ」とは何か、実践例からの接近 ● 「おしゃべりパーティ」の現在の実施状況 - 全国購買生協の組合員活動に関する調査より- ● 生活協同組合によるコミュニティへのアプローチ - 「パーティ」の取り組みから-</p> <p>くらしと協同をたずねて 協同の力で商店街と街の復興を - 気仙沼復興商店街「南町紫市場」の力闘-</p> <p>くらしと協同の本 『地方にこもる若者たち』 阿部真大著 『無縁社会から有縁社会へ』 (社)全日本冠婚葬祭互助会 編</p> <p>下門直人 的場信樹 石原純子 吉中由紀 青木美沙 加賀美太記 片上敏喜 浜岡政好 福田善乙 本橋利恵</p>	<p>2013年 秋号 B5版 62頁</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(※)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

● **社会文化学会 第16回全国大会** ●2013年12月7日(土)～8日(日)
 ● **コープあいち・生協生活文化会館**(名古屋市千種区稲舟通1-39地下鉄「本山」駅4番出口より南へ徒歩約2分)
全体シンポジウム「協同の社会システム形成の方法と課題」 ●12月7日(土) ●多目的ホール
 【プログラム】 大会実行委員長挨拶および趣旨説明 小木曾洋司(中京大学)
 報告1: **生協運動の新たな段階への胎動** …… 兼子厚之(NPO法人地域と協同の研究センター)
 報告2: **「コープあいち」の産消提携政策と「米卵」への取組** …… 磯村隆樹(コープあいち常務理事)
 報告3: **「米卵」生産を支えるもの** …… 市田真新(養鶏業デイリーファーム社長)
 コメント兼コーディネート: 小木曾 洋司(中京大学) 司会: 高橋信一(岐阜経済大学)
 8日(日) 個別報告 詳しいことは **大会プログラム** http://japansocio-culture.com//?page_id=35
 大会参加費…一般:1,500円/ 院生・学生:1,000円/ 1企画特別参加:500円
 【問合せ先】岐阜県大垣市北方町5-50岐阜経済大学経営学部 高橋信一 第16回社会文化学会全国大会事務局
 Tel: 0584-77-3511(代表) E-mail: taikai@japansocio-culture.com



● **非営利・協同総合研究所 いのちとくらし** ☆2013年度研究費助成の公募について
 ●2013年11月末日消印有効で受け付けです。 詳しいことは⇒<http://www.inhcc.org/>

書籍案内



わがままだって、いいじゃない。

92歳のピアニスト「今日」を生きる

著者: 室井 摩耶子 価格: 1,470円(税込)

発行: 小学館 発売: 2013/04 サイズ: B6判 ページ数: 195p

内容紹介 この本は、確か朝日新聞だったか、書評に紹介されていて、読んでみました。タイトル通にわがままなのかもしれませんが、ただ、戦争を体験され、30年近くヨーロッパで活動され、61歳で帰国をされたそうです。戦時下の昭和20年、ソリストとしてデビューされ、リサイタル後の空襲で、その会場は遺体安置所となったそうです。また、90歳前に家を新築されたそうです。「2階で寝たい」が、一つのお願だったそうです。今でもほとんどエレベータを使わずに階段を使われるそうです。印象的な一文が、

「5歳をめぐれば生きていければ、6歳にはなれない。91歳をめぐれば生きていければ、92歳になれません。」

「毎日、毎日めぐれば生きていけ」ということのように。打ち込めることをちゃんと持つことも、大事なことです。それと食べること。まだまだ、92歳まで40年あります。先輩たちの本を読んで、少しでも見習いたいと思います。すぐ読めて、感動的なフレーズがたくさんちりばめられている本でした。

三重県生協連 岡本

2013年10月25日発行(毎月25日発行)
定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)
 発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
 代表理事 川崎 直 巳
 〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39
 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315
 E-mail AEL03416@nifty.com
 HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

研究センター 11月の活動予定

- 2日(土) 地域福祉を支える市民協同パネル世話人会
- 5日(火) 岐阜地域懇談会「岐阜のつどい」
“やまがた”の若者とお母さんたちと交流しよう!!
- 8日(金) 組合員理事ゼミナール 第7単元
- 11日(月) 共同購入事業マイスターコース第5回
- 15日(金) フォーラムF職員の仕事を考える世話人会
- 16日(土)～17日(日) 第10回 三河地域懇談会
地域のことを知ろう・語ろう 豊川市のまちおこしに学ぶ
- 19日(火) 暮らしを語りあう会 22日(金) 環境パネル世話人会
- 28日(木) 第3回東海交流フォーラム実行委員会